

言葉の力

えのもと ともこ
榎本 朋子

●自治労 総合企画総務局長

一年の過ぎ去るのはなんと早いことでしょう。みなさんはいかがですか？ 誰かが言っていました、「幼少期は出会うものすべてが新鮮に体感できるが、歳を重ねるごとに物事に慣れというものが生まれ、これが時間を早く感じる要因になる」のだそうです。早い話が「加齢」ということでしょうか。何にでも興味を持ち行動することが若返りの秘訣といわれます。人間だけのことではなく、組織体制にもあてはまるのかもしれない。

先頃、今年の新語・流行語大賞が決まりました。一私企業の主催なのに、今ではニュースなどでも取り上げられ、すっかり年末の風物詩になったようです。この一年はコロナ禍もあり、これに関する言葉も多くノミネートされていました。

そんな時です、先輩との会話。「新語・流行語大賞で笑ってられるうちはいいけど、政治家の問題発言や放言をアナタどう思う？」。どう思うって聞かれてもねえ、発言内容を聞いた人の感性や立場にもよるのではないのでしょうか。問題発言がマスコミで報道されると、決まり文句のように、こんな釈明が多くなります。「誤解されたとすれば、私の真意が伝わっていない」と。またこうも言います。「話の一部分だけを切り取られて報道された」とも。「誤解されたとすれば・・・」とは聞き手が誤解をしたということです。政治家になったのであれば、国民に真意が伝わる術を学んで欲しいと私は思い

ます。伝えることと伝わることの意味は、まったく違います。政治家の問題発言は、与野党を問わず昔も今も多くあります。「そういえば古い話で、『政治家に徳目を求めるのは八百屋で魚を探すようなものだ』と言った当時の法務大臣がいた」と先輩の話は続きます。ついこの前まで普通の一般人だった人が政治家になると、なぜか不思議な言動をとる方がいます。過去には、「医師には社会常識が欠落している人が多い」と言った首相もいました。社会常識と思っ

ていることが実は非常識、なんてことがよくありますが、業界の狭い中だけの常識は困りものです。ある意味、私たちも気をつけなければなりません。

歌は世につれ、世は歌につれと言います。世相と歌には密接な関係があり、時代背景もありますが、政治・経済からも世相や社会背景が見えてきます。コロナ禍の終息が見通せないなかで、職場環境の変化や働き方をはじめ、すべての人々の暮らし方・生き方の選択（変革）が迫られています。

医療や福祉をはじめ私たちの暮らしに従事するすべての人々に感謝すること、これを素直な言葉で伝え、みんながお互いの働きと頑張りにエールを送りましょう。「言葉」は大事ですし、重いのです。私たち一人ひとりは何ができるのかを模索しながら、みんなが健康で安心して過ごせることに「ありがとう」です。